

# 腎・泌尿器

科目責任者 釜井隆男  
学年・学期 3学年・3学期

## I. 前 文

近年、医学の進歩は目覚しく、その習得には幅広い知識の積み重ねが必要とされる。まず諸君には、将来患者に信頼される臨床医、あるいは優れた研究医となるべく自らを叱咤激励し、勉学に励むように期待したい。

今回「腎・泌尿器」では講義の重複を避けるため、臨床科をまたぐ疾患については同一時間に関連する科で受け持つこととした。発生・解剖・生理・病態・治療を系統的に講義するが、学生においては講義を受けるという受動的な態度ではなく、質問を含め能動的に講義に参加することを期待する。また講義の折々に疾患に関する最新の話や、最新の治療法についても触れ、興味ある講義としたい。

## II. 担当教員

泌尿器科学	(釜井隆男)	小児科学	(吉原重美)
腎臓・高血圧内科	(頼建光)	埼玉医療センター・腎臓内科	(竹田徹朗)
埼玉医療センター・泌尿器科	(齊藤一隆)		
非常勤講師：泌尿器科学	(阿部英行)	腎臓・高血圧内科	(中野信行)
小児科学	(大和田葉子)		
病理診断学	(石田和之)	(病理学各論Ⅲ, 病理学各論実習 科目責任者)	

## III. 一般学習目標

まず「腎・泌尿器」の各臓器につき、その発生・解剖・生理につき習得する。次いでこれらの異常として発症する各種疾患の病態につき理解する。これらの理解のもと如何なる検査を行えば鑑別診断・確定診断が効率的になされるかを学び、適切な治療への基本的知識を習得する。

## IV. 学修の到達目標

講義とは医学用語を単に暗記させるための時間ではない。学んだ医学知識をいかに消化し、いかに他の知識と統合させていくか。またそれらからいかなる仮説が立てられるか。という思考法を習得する時間でもある。「腎・泌尿器」の講義からこのような思考法を学び、将来において問題の自己解決ができるような能力を養うことをその到達目標とする。

## V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1：反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)  
2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション  
6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
1	11	1	火	6	総論	泌尿器科学 釜井隆男	
2		2	水	2	腎生理学Ⅰ (酸塩基平衡)	腎臓・高血圧内科 古市将人	1
3		2	水	3	腎生理学Ⅱ (電解質バランスと輸液)	腎臓・高血圧内科 古市将人	1
4		14	月	7	慢性腎不全	腎臓・高血圧内科 里中弘志	

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブラーニング
	11	15	火	6	内科学的腎疾患Ⅰ（糸球体腎炎）	腎臓・高血圧内科 藤 乘 嗣 泰	1
		15	火	7	内科学的腎疾患Ⅱ（ネフローゼ症候群）	腎臓・高血圧内科 藤 乘 嗣 泰	1
		16	水	3	泌尿器科処置	泌尿器科学 別 納 弘 法	
		17	木	3	加齢と性ホルモン・性同一障害	埼玉医療センター 泌尿器科 井 手 久 満	
		18	金	4	急性腎不全	腎臓・高血圧内科 中 野 信 行	1
各3		28	月	1	腎腫瘍の病理	病理診断学 石 田 和 之	
各3		28	月	2	尿路疾患の病理	病理診断学 石 田 和 之	
	12	5	月	2	内科学的腎疾患Ⅲ（全身性疾患に伴う腎病変）	日光医療センター 心臓・血管・腎臓内科 川 本 進 也	
		5	月	3	小児科学的腎疾患Ⅰ	小児科学 大和田 葉 子	
		5	月	4	小児科学的腎疾患Ⅱ	小児科学 大和田 葉 子	
実		8	木	6	腎腫瘍・尿路疾患の病理実習	病理診断学 大和田 温 子	4
		9	金	1	腎・尿路系 小児泌尿器	埼玉医療センター 泌尿器科 宋 成 浩	1
各3		9	金	2	男性生殖器疾患の病理	埼玉医療センター 病理診断科 松 島 惇	
実		9	金	3	男性生殖器疾患の病理実習	埼玉医療センター 病理診断科 佐 藤 泰 樹	4
		9	金	4	血液浄化療法	埼玉医療センター 腎臓内科 竹 田 徹 朗	
各3		13	火	4	腎疾患の病理（非腫瘍性疾患Ⅰ）	病理診断学 石 田 和 之	
各3		13	火	5	腎疾患の病理（非腫瘍性疾患Ⅱ）	病理診断学 石 田 和 之	
実		15	木	1	腎非腫瘍性疾患の病理実習	病理診断学 石 田 和 之	4
	1	6	金	2	腎移植	埼玉医療センター 泌尿器科 徳 本 直 彦	
		6	金	3	腫瘍学Ⅱ（尿路上皮癌）	泌尿器科学 木 島 敏 樹	
		6	金	4	腫瘍学Ⅰ（腎癌・副腎癌・腎後腹膜外科学）	泌尿器科学 釜 井 隆 男	
		16	月	1	解剖学 解剖学的異常と疾患	埼玉医療センター 泌尿器科学 新 井 学	
		16	月	2	症状と疾患	泌尿器科学 安 士 正 裕	
		17	火	1	腫瘍学Ⅳ（陰茎癌・精巣癌など）	泌尿器科学 幸 英 夫	

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
29	1	17	火	2	精巣機能と性分化・生殖医療	埼玉医療センター 泌尿器科 齋藤 一隆	
30		17	火	3	尿路結石	泌尿器科学 阿部 英行	
31		18	水	2	泌尿器感染症	泌尿器科学 別納 弘法	
32		19	木	3	下部尿路症状・尿失禁・神経因性膀胱	泌尿器科学 別納 弘法	
33		19	木	4	腫瘍学Ⅲ（前立腺癌・肥大症）	泌尿器科学 安士 正裕	

注) 上表のうち、左端の「各3」「実」と表示されたコマは、それぞれ別科目「病理学各論Ⅲ」、「病理学各論実習」の授業であるが、科目構成上「腎・泌尿器」の授業とともに表記されている。

#### VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

授業態度（出席状況：全出席が前提、講師に対する質問）と定期試験から（90%）判断するが、時々行う小テストの点（10%）も考慮に加える。

#### VII. 教科書・参考書・AV資料

TEXT 泌尿器科学 南山堂

エッセンシャル腎臓内科学 医歯薬出版

標準泌尿器科学 医学書院

NEW 泌尿器科学 南江堂

基本泌尿器科学 医学図書出版

メディカルノート 腎臓がわかる 腎・尿路疾患／水・電解質異常 西村書店

#### VIII. 質問への対応方法

随時受け付ける。但し、事前に秘書を通じ、アポイントをとること。

## IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

## X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各担当教官から適宜フィードバックを行う。

## XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊参照。なお、シラバス別冊に記載が無い場合、該当する講義の要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

## XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊参照。